

27E-pm10

改訂コアカリ実務実習に向けたルーブリック作成と評価トライアル (1)

○鈴木 小夜¹, 島村 奈緒美², 池淵 由香², 青森 達^{1,2}, 岩田 紘樹^{1,3}, 高木 彰紀¹, 地引 綾¹, 津田 壮一郎², 別府 紀子², 山浦 克典^{1,3}, 望月 眞弓^{1,2}, 中村 智徳¹ (慶應大薬,²慶應大病院薬,³慶應大薬局)

【目的】学習成果基盤型教育が導入された改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムにおける実務実習はパフォーマンスが基盤となる。実務実習での効果的かつ円滑なパフォーマンス評価を目指し、課題・評価尺度(4段階)・評価観点・評価基準の4要素から成るルーブリックの作成と評価トライアルを行ったので報告する。

【方法】慶應義塾大学薬学部(以下、本学)実務実習委員会にて「処方箋に基づいて適切に調剤ができる」(以下、『調剤』)、「患者の病状や背景に配慮し適切な服薬指導ができる」(以下、『服薬指導』)及び「処方箋に基づいて適切に注射薬調剤ができる」(以下、『注射』)をコンピテンシーとする3種類のルーブリックを作成した。平成28年度慶應義塾大学病院I・II期実務実習生(計34名)を対象に、『調剤』1回、『注射』2回、『服薬指導』2~5回、担当薬剤師が実習生とともに振り返り評価を行い、評価担当薬剤師の感想についてアンケート調査を行った。

【結果・考察】『調剤』と『注射』には評価観点や評価基準の改善を求める意見が挙がり、更なるブラッシュアップとともに、作成者と評価者の想定・認識の一致が必要であると考えられた。『服薬指導』では、「学生間で症例や評価者が異なる」など評価への影響を懸念する意見の他、ルーブリック評価は「負担」との意見が複数挙がった。一方、「学生との目標の共有化」など実習開始前にルーブリックを意識することの有用性も挙げられた。またI期実習生の評価尺度の平均評点が初回指導時1.5から服薬指導実習最終週2.6に上昇し、実習生のパフォーマンス向上・実習指導効果の測定が可能であったことから、作成したルーブリック及びこれを用いた評価法について一定の有用性を確認できた。SBOs評価からパフォーマンス評価への移行には作成者と評価者でトライアルを重ねることが必要である。